

2011年2月1日
株式会社パスコ

(報道資料)

合成開口レーダー衛星「TerraSAR-X」で新燃岳火口のモニタリング【第二報】 2011年2月1日午前6時10分撮影

株式会社パスコ(本社:東京都目黒区、代表取締役社長:杉本陽一、資本金:87億円、セコムグループ、東証1部)は、宮崎・鹿児島県境にある霧島山系・新燃岳の火口の様子を合成開口レーダー衛星「TerraSAR-X」で撮影し、同火山のモニタリングをおこなっています。

本撮影の直後(午前7時54分)には4回目の爆発的噴火があり、本画像は直前の溶岩ドームを捉えた貴重な情報といえます。



■合成開口レーダー衛星「TerraSAR-X(テラサーエックス)」

「TerraSAR-X」は、衛星本体からマイクロ波を照射し、地表面あるいは地上の対象物から反射・散乱されて戻ってくるエコーを受信する能動型センサを搭載しており、昼夜間を問わず、また、雲や噴煙の影響を受けず地表面を撮影できるため、災害発生時に大きな威力を発揮します。

「TerraSAR-X」は、ドイツ政府機関のドイツ航空宇宙センター(DLR)とヨーロッパの大手航空宇宙企業 EADS 社傘下の EADS Astrium 社との官民連携事業によって開発され運用されるドイツの衛

星で、その商業利用を EADS Astrium 社が設立した Infoterra 社が担当しています。
パスコは、この Infoterra 社とパートナー契約を結び、日本国内への独占販売権と世界市場への販売権を保有し、「TerraSAR-X」の撮影データとデータから生成される新たなサービスを提供しています。

■ 今後について

今後も、噴火活動のモニタリングを継続して行く予定です。
経過は、パスコホームページの「災害緊急撮影」に随時掲載して行きます。
http://www.pasco.co.jp/disaster_info/

■ お問合せ先

(報道関係)

株式会社パスコ 基幹業務部 広報担当:03-6412-2800

(お客さまから)

株式会社パスコ カスタマーセンター:0120-494-800